



今年5月、伝統工芸高岡銅器振興協同組合の理事長に就いた。売り上げの減少や後継者不足など業界を取り巻く環境は決して良いとは言えないが、「伝統継承のために、一つでも課題を解決していきたい」と意欲を燃やす。

# 次の100年に残す

伝統工芸高岡銅器  
振興協同組合理事長

竹中 伸行氏



「継続することはない」と指摘し、大事なものは「次の100年に(高岡銅器を)残すことだ」と力を込める。

「施工例を発信するための新規事業として、全国にある銅像やモニユメントなど高岡銅器の施工例を集め、国内外に発信

## 取材メモ

10年ほど前に友人から誘われて始めた登山が趣味で、多い時には年に100回は登る健脚ぶりだ。コロナ下前には、キリマンジャロも登頂した。山の良さを聞くと、「自然の美しさを前にすると、自分の悩みが小さいものだど気付く」と笑う。そのおおらかさと行動力が人を引き付けているのだろう。  
(高岡支社・渡邊翔太)

たけなか・のぶゆき  
高岡市出身。高岡高、早大文学部卒。竹中銅器、竹中製作所社長。高岡銅器の業者でつくる伝統工芸高岡銅器振興協同組合(伝振協)副理事長などを務め、2022年5月から現職。59歳。

は業界全体のPRをしつつあり、その中で企業を応援する。「アクセサリやタンブラーなど時代にマッチした商品も紹介し、裾野拡大につなげたい」と意気込む。組合員を維持、拡大させることも大切な責務だ。売り上げが多かった時代には約500社が加盟していたが、現在は約160社と減少している。「製造と販売

が一緒に加盟している組合なので新たな接点も生まれる。ぜひ加盟してほしい」と呼び掛ける。

理事長に就いてから、原型やデザイン業に働き掛けて組合に新たに加盟してもらった。将来的には、額縁やパネル、木箱など周辺の業界も加入できるように協議する方針も示し、「周辺の業界が組合に入れば商品の幅も広がりより発展していく」と話す。

コロナ下の業界は資材や燃料費高騰で、新たな困難に直面している。「高岡銅器ならではの良さを周知するなど発信力を高め、業界を存続、発展させていきたい」と前を見据えた。